

印刷現場を覗いてみよう!



近頃メディアでは、校正印刷会社で次々に発生した胆管がんについて、大きく報道されています。

お客様方、取引先の皆様方から、度々心配のお声をいただきました。ありがとうございました。

胆管とは肝臓で作られた胆汁を、十二指腸まで運ぶ細い管のことで、印刷に使うインクを洗い流す洗剤の中に、胆管が

遊文通信 Vol.16

んを引き起こす物質が含まれているとされています。

弊社では、今回問題になっている有害な有機溶剤が含まれている洗浄剤は使用しておりません。また、印刷現場も1階にあることから、風が良く通る環境です。

今より更に良い労働環境を作るためにも、コンプライアンス意識を徹底して、予防対策をよりいっそう強化してまいります。

今月号の遊文通信は、弊社の印刷現場をご紹介します。印刷現場とは、どんなものなのか。

印刷現場では、どんな人が働いているのか。

普段の業務では、お客様と直接やりとりすることの少ないメンバーですので、ご紹介も兼ねて、遊文舎をもっと知っていただければと思います。(ベーヤん)

● ベテラン2人に聞きました

Q 印刷業を続けてこれたのはどうしてですか?



長谷川 38歳
●印刷歴14年
●カラオケの最高得点91点
●趣味：競馬

仕事なので、もちろん楽しいことばかりではありませんでした。でも楽しい仲間がいるから続くんです。遊文舎にはいつも笑い声が絶えません。プライベートでも仲がいいので、仕事帰りにしょっちゅう飲みに行っています。罰ゲームでカラオケに行くと、高得点が出るまで歌い続けたことも今ではいい思い出です。でもやっぱり一番は、印刷物が出来上がって、お客様に喜んでいただけることが、この仕事をやめられない本当の理由なんですけどね!

Q 仕事のこだわりなどあれば教えてください

いつも楽しい仲間ですが、仕事はみんな真剣です。気が緩むと、ミスだけでなく、怪我が起きます。いつも気を引き締めて、安全な職場を自分たちで作っていく。それが事故を防ぐ方法のひとつでもあり、いいモノを作るためのこだわりでもあります。プロであるという意識を、常に持っています。



小崎 35歳
●印刷歴7年
●好きな食べ物：いちご

● 胆管がんのニュースを知って

Q 校正印刷会社ってなにをしているところ?

校正印刷会社というのは、実際の印刷をする前に確認用の色見本を刷る会社のことなんです。たくさんの種類の見本を少しずつ刷るので印刷機を有機溶剤で洗う頻度が非常に高いんです。その洗浄剤に、胆管がんの原因とされている化学物質「1,2ジクロロプロパン」「ジクロロメタン」が含まれているものを使用したようですね。遊文舎のような一般の印刷会社では、めったに使うことがないんですよ。



児島 24歳
●好きな女性のタイプ：目がくりっとした人。僕今、好きな人がいます。

Q 事故から何か学んだことは?

あの事故が起きてから、普段よりこまめに空気の入替えをしたり、休憩を取るよう心がけるようになりましたね。遊文舎の印刷場は1階なので、人の出入りも多く、風はよく通っていると思います。より安全で、より良いものが作れたら、それが一番です。



加地 36歳
●印刷歴17年 ●好きな場所：山
●好きな色：黒

栄光の 架け橋 第16回

第16回は今、日本のインターナショナルスクールとして
話題の株式会社キンダーキッズさんにお伺いし、
担当者の迫田様にお話をお聞きしました。

——キンダーキッズインターナショナルスクール についてお聞かせください

キンダーキッズは、日本に暮らす子ども達のための幼保一体型インターナショナルスクールです。「日本の心、英語の力」をスローガンに掲げ、英語を話さない環境にいても、両親が全く英語を話さなくても誰でも入園でき、バイリンガルで広い視野を持った、国際感覚のある子ども達を育てていくインターナショナルスクールです。2000年に東大阪に第1校を立ち上げ、現在では大阪府に6校、兵庫県に3校、奈良県に1校、京都府に1校、愛知県に1校、神奈川県に1校、東京都に1校、全14校で約2,000名のお子様をお預かりしています。

1歳6ヶ月のお子様から6歳の小学校入学前までの子ども達を5クラスに分け、それぞれの年齢にそったオリジナルカリキュラム、オリジナルテキストを使用し、ネイティブ講師、日本人講師のチームティーチングで保育を行っています。

日本の繊細な文化や伝統、外国のダイナミックで多種多様な文化や習慣の両方をうまく生かし、経験豊かでエネルギー溢れる講師陣が毎日楽しく内容豊かな園生活を提供しています！

——ところで、今特に力を入れられている事は何 でしょうか

日々変化を遂げる国際情勢と子ども達、またその成長を見守る保護者の皆様のご要望にお答えし、より子ども達が興味を持って取り組める内容を盛り込んだカリキュラム作りとそれに沿ったテキストの開発は弊社の永遠のテーマだと考えています。このテーマに限りやゴールは無く、その時代時代に合う最高の教育を提供することが一番力を注ぐ部分であり、私たちの活力となっています。また、そのカリキュラムを十二分に生かした保育を行ってくれる講師陣の教育も私たちの大きな仕事です。



——キンダーキッズで育った子ども達に将来、何 を期待しますか

子ども達には真のバイリンガルとして、自信と誇りを持って社会に出て活躍してほしいと思います。ただ英語が話せる、というだけでは真のバイリンガルとは言えません。日本人としてのアイデンティティをしっかりと持ち、国際的な感覚をもって英語を一つのツールとして色々な分野でその能力を発揮してほしいです。日本人は英語に弱く、視野が狭いといったイメージを払拭してくれるのは今の子ども達だと思います。

——唐突ですが、遊文舎の印象はいかがですか

私たちのような素人が漠然とイメージしたものを形にして下さる力強い方々です。イメージは湧いているのだけれど、それをどのように実現できるか悩んでいると親身になって相談に乗って下さり、実際に多方面に足を運んで適材を見つけて下さったりとても心強いです。皆さんとても親切で、丁寧に教えて下さる姿勢はプロとしての意識の高さを感じます。今後も色々とお力添えを頂ければと思います！

——ありがとうございました。これからも皆様の 一助となれるよう、頑張っ参ります！

(聞き手：Sわだ)



だーくんの
趣味を語れお！

今回は休みます。次回をお楽しみに！

iPhone / iPad / Android アプリの開発をしているのは前回書かせていただいたのですが、とうとうアプリ登録に成功しました。アプリは3本。いずれも「百人一首」で検索すれば出てきます。

アプリの料金は無料です。デベロッパー登録料がAppleで8,400円、Googleで25ドル。およそ1万円ぐらいかかったのですが（もちろん自腹）無料で出すと大赤字なのですが、子供用ですし、私の開発実験でもあったので無料ということにしました。

すぐに気がついたのですが、他の似たようなアプリで85円の値段のものがありません。その評価ですが、「この程度で85円? ★1つ」とかボロクソにけなす人がいます。開発者からすると85円程度でそこまで書くかと思うのですが、こういうのにコメントを書き込む人はそういう人が多いのも確かです。僕もAndroidの1つのアプリで「★2つ」の評価をされましたが「そんな事でこの評価?」と正直疑うようなコメント内容でした。まあそれでも「無料」だからあまり悪い評価がつかないのかなと思っています。興味ある方はGoogle プレイのほうを覗いてみてください。まあ有料にした所で1本85円だと100本売れて8500円。1000も売れるとは思えないのでそれよりも割り切って無料で宣伝的に使う方がよさそうです。ただ、電子書籍という形態でけっこうなボリュームを用意すれば700円以上でも売れそうです。

せっかくアップするのですから多くの人にダウンロードしてもらいたい。ダウンロードされるにはホームページを作って宣伝することも大切ですが、人気のアプリにランキングされるのが一番です（このアプリは誰でも楽しめるわけではないのが残念ですが）。



▲五色百人一首...となっているのが登録したアプリ。アプリ名は省略されてしまうので注意が必要。

という事で何かすることにしました。いま流行のステルスマーケティング。いわゆる「やらせ」です。幸い会社には何人も「iPhone / Android」ユーザがいるのでダウンロードしてもらって「★」を5つつけてもらいコメントを書いてもらいます。

そうすれば評価の高いアプリとしてランキングされるのではないかとにらんだのですが、まず「★」5つを付ける人が5人以上ないと AppStore に「評価がありません」と表示されます。なので協力者を5人以上が集めないといけません。

さてこのアプリ、今後どのようにダウンロードされていくのでしょうか。登録直後は必ず全てのアプリをダウンロードする人がたくさんいるので一定のダウンロードはあったのですがまた次回報告したいと思います。（記：たけうちとおる）

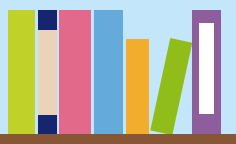


▲アプリのダウンロードページ。紹介文他画面のキャプチャやさまざまなサイズのアイコンを用意する必要がある。



▲これがやらせコメント。全員知り合い。

今月の一押し本



横山 秀夫 『臨場』

光文社 ¥1,785

“終身検視官”、死者の人生を救えるか――。

今月は、現在ロードショーが皮切りになったばかりの旬もの、警察小説の大家、横山 秀夫著『臨場』を推薦いたします。

以前有名な『第3の時効』を紹介しましたが、ハードボイルドテイストは近いものがあり、かつ短編6集になっていて読みやすいので、休日のおともに最適です。

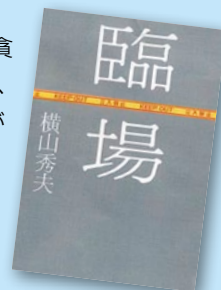
辛辣な物言い一匹狼を貫く組織の異物、倉石義男。

みなさんこんにちは！新旧問わず、私キパノスケのまったくの主観に基づき、お勧め本をどんどん紹介させていただきます。ご感想などお聞かせいただければ幸いです。

その死体に食らいつくような貪欲かつ鋭利な「検視眼」ゆえに、彼には“終身検視官”なる異名が与えられていた。

主人公は、誰もが自殺と判断するような現場を一目ただけで、ほんのわずかな手がかりも見逃さず真実を見極める能力を持った異能者。

自殺にも他殺にも人の死の背景にはいかに様々なドラマが隠されているのか、心温まるヒューマンドラマでもあります。大ヒットのテレビドラマから映画化へ。しかし原作は超えられていないようです。是非ご一読ください！
(キパノスケ)





一前回までのあらすじー

上海空港へ降り立った翔文館印刷の一行。現地ガイドのチャンの案内でバスに乗り込むが、その時坂辺部長の姿が見えないことに気がつく。その坂辺はクライアントの多々美屋食品から預かった問題のUSBメモリーを持ったままこの旅行に参加していた…。

バスに乗り込む一行も次第に井原社長や土居坂が話している様子から異変を察知しだした。

「え、坂辺部長ほんまにおれへんのですか?」「また、トイレとちやいまずのん?」

社員はそれぞれ口にした。井原社長が切り出した。

「まあ、とりあえずみんなバスに乗りよう、そして坂辺さんを少し待つことにしよう…」

井原社長と土居坂がガイドのチャンに事情を説明していると土居坂の携帯が鳴った…。

携帯には「坂辺さん」と表示している。

土居坂は咄嗟に電話に出た。

「もしもし…、坂辺さん、…」「おお、土居坂君、もうみんなバス乗ってんの?」

電話の声は間違いなく坂辺だった。「もうみんな待ってますよ、今どこですか?、トイレ?」

「いや、ちやうねん、…まあ、…またゆっくり話すわ…」「ってか意味分からんし…ちょっと早く来てもらえませんか、バスの時間もあるし…」

しばらくの沈黙のあと坂辺が言った。「ちょっと先にいっといてくれへんか?」

土居坂は驚いた。「え!、何を言うてはるんですか、どうするつもりですか!」

「またゆっくり話すわ…」「だからそれはもういいって」

「とりあえずあとで合流するわ…」坂辺はそれだけ言って電話をきった。

「どうしたって?」井原社長は不安気な表情で土居坂に尋ねた。

土居坂は事情を説明したが、なんとも不可解な出来事に井原社長も戸惑いを隠せなかった。

しばらく考えてから「まあ坂辺さんのことやから、あとできっちり連絡はくれるやろ…、確か次は市内の観光やからそのあたりのどこかで合流しようと考えてはるかもしれん…、何があったかは分らんが、まあ、連絡を待ちながらツアーを続けましょうか、ねえ土居坂さん」井原社長は土居坂にそういった。

土居坂はバスの前方に立って社員に事情を説明した。もちろん皆驚いたことはいまでもない。

車内はざわついた。ガイドのチャンが声を上げた。

「まあ、まあ、みなさん! 何があったかわかりませんがとりあえず出発したいと思います! アーユーレディ?!」

「……………」

「オッケー?!」

「……………」

「あ、う、運転手さんそろそろ出発してもらっていいですか…」申し訳なさそうに井原社長が運転手に言った。そしてバスは出発した。

坂辺は何か事件に巻き込まれたのか、いや、電話の雰囲気からはそんな様子は窺えなかった。では一体何故わざわざ別行動をとる必要があるのか…。土居坂はずっと考えていた。

バスは空港を出てすぐ広い国道に出た。坂辺の件は心配だが急遽決まった折角の社員旅行…、窓からは中国上海の街並み…いやがうえにも車内はまた明るさを取り戻した。

営業の大河野は自分のバッグを膝の上にのせて座っていた。しかしバッグを2つ持っていることに改めて気がつき声を上げた。

「あっ! 僕、坂辺さんのバッグ預かったままでしたわ…」 (つづく)

梅雨が過ぎれば…サマーキャンペーン

(6/18 ~ 7/31)

抽選で iPad3 が当たる!

どこにも
負けない
低価格

期間中すぐスールにて 10,000円以上
ご利用のお客様の中から抽選で 1 名様に
なんと **新しいiPad** を
プレゼント!!
(wi-fi 16GB 42,000 円相当)



編集後記

編集担当が変わりました。リニューアルした遊文通信、いかがでしたでしょうか?
次回からの News Letter もおたのしみに!

(ペーやん)